

「登山指導者研修会」

★事業の概要★

事業のねらい

1. 学校をはじめとする集団登山を安全に実施するために必要な知識と技術を身につける。
2. 登山をとおして、自然の恩恵に気づかせるための指導法について理解する。
3. 活火山に関する理解を深め、安全対策について学ぶ。

期 日

平成27年6月27日（土）～ 6月28日（日）

会 場

国立大雪青少年交流の家・富良野岳

対 象 者

登山を含む野外活動において指導及び指導補助に携わる者
（教職員、社会教育関係者、青少年教育施設職員、子ども会育成者、
またはそれらを目指す者で18歳以上）

参加者数：参加募集人数

23名：20名

講 師

小 山 寛 氏（気象庁旭川地方気象台火山防災官）
谷 内 一 弘 氏（気象庁旭川地方気象台土砂災害気象官）
内 藤 美佐雄 氏（北海道山岳連盟常任理事）
山 名 賢 一 氏（北海道山岳連盟理事）

日 程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
27 土									開 会 式	オ プ ン テ レ ビ ン	① 説 明 ・ 視 察 「 活 火 山 の 理 解 と 安 全 対 策 」	夕 食	② 講 義 「 安 全 な 集 団 登 山 」		入 浴		就 寝	
28 日	起 床	準 備	③ 実習 「集団登山の実際」 ※少雨決行							成 果 と 課 題	閉 会 式							

★プログラム紹介★



研修① 「活火山の理解と安全対策」

気象庁の火山防災官から、火山噴火の仕組みや火山噴火時の安全対策について説明を受けた。



研修① 「活火山の理解と安全対策」

望岳台（十勝岳の登山口）で、過去に起きた火砕流の痕跡を観察し、火山活動の監視機器の視察を行った。



研修② 「安全な集団登山」

集団登山を引率するリーダーの責任や、義務について、過去の事故事例をもとに学んだ。



研修② 「安全な集団登山」

集団登山を引率するリーダーが持参する道具や持ち物について、実物を見ながら理解を深めた。



研修③ 「集団登山の実際」

休憩のとり方や隊列のローテーションなど、集団登山指導の基本スキルについて、実践をとおして学んだ。



協議 成果と課題

「活火山の理解と安全対策」及び「安全な集団登山」をテーマに、学びや気づきの交流を行った。

企画・運営のポイント

全国的に活発化している活火山の状況を鑑み、今年度初めて「活火山の理解と安全対策」の視点を取り入れてプログラムを構成した。

登山指導者が持参すべき登山用具について、実際に講師が持参しているものを見ながら解説を聞く時間を設けることで、理解が深まるようにした。

事業を終えて(成果と課題)

火山の噴火タイプ、噴石や泥流などによる被害の種類など、火山に対する理解の深まりと、今後の集団登山引率への指導意欲の高まりが見られた。

年度当初から近隣の教育大学へ事業案内を行うことで、ゼミ単位での参加を得ることができた。しかし、学生の装備品が十分に準備されておらず、事前案内と確認を丁寧に行う必要を感じた。

今後の方向性

全国各地で火山活動が活発化しており、活火山に関する理解や安全対策が求められている中、火山災害に対する防災意識を高める研修プログラムは、今後も登山指導者にとって有効である。

昨年度の反省をもとに、けがや体調不良によって、下山しなければならない参加者が発生した場合の対応について、職員を2名配置したことで、安心して実習を運営することができた。